

リサイクル燃料貯蔵株式会社	
提出日	2022年3月16日
管理表No.	0113-06 改訂00

項目	コメント内容
地震 (第7条)	(0113-06) 補足説明資料 設2-補-013-03 に、以下に関する内容を、定性的なものでよいので追記すること。 ・材料物性の不確かさを考慮した応答は10%拡幅する必要がない理由、または10%拡幅は基本ケースのみに適用すれば十分である理由。

(回 答)

基準地震動 $S_s$ 又は弾性設計用地震動 $S_d$ による地震応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトル（以下、基本ケース）は、JEAG4601-1987 に準拠し、固有周期の多少のずれにより応答に大幅な変化が生じないように周期軸方向に±10 %の拡幅を行う。

材料物性の不確かさを考慮した応答スペクトル（以下、不確かさケース）は、当該ケース自体が応答スペクトルの応答に変動を及ぼす地盤剛性や材料物性を変動させたケースである。不確かさケースを設計用床応答曲線に包絡する目的は、金属キャスク及び貯蔵架台の固有周期と不確かさケースのピークが重なる等、有意な影響を与えないことを確認するためである。このため、不確かさケースに対して周期軸方向に±10 %の拡幅をする必要はない。

上記説明を「設2-補-013-03 設計用床応答曲線の作成方針」2.5 に反映する。

以 上